

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となるようこれまでの理念を見直し住み慣れた地域での安心した暮らしを支えることを柱に置いてある。また職員全員で作りあげている。</p>	<p>明確に言語化して生活の中でいかに入居者本位のものにし、一人ひとり地域の中でその人らしく生活することを支えていけるよう話あっている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>カンファレンス時に意識つける為確認し合っている。</p>	<p>○</p> <p>理念を具体的分かりやすくして最低一日二度は目視出来るようタイムカードの横に提示する。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレットやホームの見えやすいところに掲示して家族や入居者さんにも十分説明している。</p>	<p>○</p> <p>地域に向けての話し合いに積極的に出かけ行きアピールする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の方には道でお会いした時、挨拶している。お得な食品(米等)購入の案内、リサイクルの代行。</p>	<p>介護現場の理解を深めて戴く為、来訪してもらう。見学者、小中高の学生、ご近所、行政関係者に現場を見てもらい、認知症高齢者を理解してもらう。横浜市及び都筑区が主催する行事に積極的に参加。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区センターでの催し、音楽会、演芸会等には参加し、又地域の餅つき大会、盆踊り大会等はスタッフも手伝いホーム全員で楽しんでいる。月1回のごみ拾い全員で参加している。</p>	<p>ご近所の方々、散歩で出会う方々には笑顔ではっきりと挨拶を行うことを心掛ける。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	敬老の日、ひな祭りで地域の子供達にお年寄りと接する機会をつくっている。	○	グループホームの成果を地域の認知症の人のケアサービスの推進のため地区センター等公的な場に出向いて伝える取り組みをしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	調査項目に全スタッフで取り組み質の向上に努めている。		現状と同じようにもっと浸透させる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を開き、評価結果、今後の課題について報告し、意見をもらい、モニター役になってもらう。	○	地域住民、包括支援センターや行政の職員に対し参加してもらえるよう働きかけ推進会議の意義や役割を十分理解していただく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区相談窓口に折に触れ相談に行っている。県、市、区が主催している講習会等に積極的に参加して現場でどのように実践しているか討論している。	○	市町村の職員の研修の場としても活用していただく為働きかけたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一人ひとりの生活状態を具体的に把握し利用の必要性が考えられる場合必要に応じて活用を援助し、支援している。		今後も必要に応じて支援を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法についての書類を職員の目につく所に張り常に学んだりカンファレンスにて話し合って理解浸透するようにしている。		転倒などの入居者が抱えるリスクに対し、身体拘束をしない介護上の工夫をおこなっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけて、不安疑問に答え、ケアに関する考え方や取り組みを説明している。	重要事項説明書、契約書等に入居者の権利、義務を分かり易く明記して同意を得ている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部から傾聴ボランティアに来てもらい利用者さんから苦情など表出しやすいように働きかけ機会を作っている。	○ 言葉、表情や体全体の動き、スキンシップ等で感情を引き出す機会をつくっている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・月一回「朝日のあたる家便り」にて近況様子・写真で知らせている。 ・移動、新職員紹介などその都度知らせている。 ・家族の来訪時介護日誌を見てもらっている。	月一回の便りの中に週毎の様子を記載したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・定期的に家族会を開催して率直な意見を出してもらうようにしている。 ・家族会で出た意見、要望についてはカンファレンスを開き早急に対応している。	家族からの苦情などプライバシーに配慮しながら許可を得て通信に載せ他の家族からの声も出やすいように呼びかける
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一日二回のフタッフミーティング、自由に書き込み出来るスタッフノートを設置し 運営者や管理者が職員の意見や提案に回答を書き加えている	日ごろから職員が自由に意見を言えるよう雰囲気をつくる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の急な休み等にも対応できるよう無理のない勤務シフトになっている。	入居者の状態の変化や希望に応じて柔軟に職員を配置する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者さんとの馴染みの関係を保つ為事業所の都合で異動はなく固定している。やむなく離職の場合でも引継ぎを徹底している。	職員採用時にも資質のある人材の確保に努め、配置の際も適した人材の配置を十分配慮してある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場経験を推し量り、スキルアップの為の研修、講習を講させ、技術や知識を身につけ資格を習得できるようにしている。	全職員が共有できるよう、研修内容を記録し発表している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会による交換研修に参加し、又実習の受け入れ体制も万全である。	他グループホームへの見学や学習会参加により質の向上を目指す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員の私物用引き出しや、休憩スペース、職員専用飲み物が確保されている。 ・ストレス解消の為月一回のお茶会「にこにこ会」を開催している。	・休憩スペースでは、横になることも出来、身体や心をリフレッシュできる環境作りしている。 ・入居者一人に対し二人で介護する等、身体への負担を軽減する工夫をしている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の資格習得の為の支援を行い向上心を持てるよう職能評価を行っている。 ・健康を保つ為に健康診断を実施している。	行事をめりはりの指標として希望を取り入れ一つ一つを達成させたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前のお試し入所をもうけ本人の不安を取り除けるように本人がおかれている状況を理解する努力をしている	利用者さん本人との信頼関係を築くため話を良く聞いて理解する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の入居者さんの生活状態を家族に知らせ又、家族が望んでいることを聞いてどのように対応できるか事前に話し合っている。	即時的ニーズは何か家族と十分な話し合いをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来た人の全てのニーズは当事業所だけで抱え込まず地域包括支援センター等に相談したりして方策を考えている。		今後も本人と家族の要望に応じ必要な支援を見極めて行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が安心して納得が出来て入所できるよういきなりの入所ではなく事前に宿泊体験をおこなっている。		本人が慣れるまで家族の宿泊も行う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と食事、レクリエーション、外出を積極的に行い共に生活し、楽しみを分かち合いお互い感謝し合うという事を心がけている。		・利用者の話を良く聞きそれに込められた意味を理解するようコミュニケーションをとる。 ・信頼関係を築き、共に支えあって問題を解決していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族双方の意見、気持ちを良く聞き共有して、より良い方向へという気持ちを大切に家族と同じような思いで支援している。		共に本人を支えて行きたいという意向を家族に伝える。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・行事、誕生日には家族の参加を呼びかけてより良い関係の継続に努めている。 ・絵手紙を作成した際、家族、友達に郵送している。		来所の回数が少ない家族には直接電話で話をする機会をつくり途切れないように留意していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・一人ひとりの今までの生活習慣を尊重している。 ・友達、親戚など季節のはがきを出していただくよう支援している。		昔からの友達、近所の方々に訪問してもらう。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さんの興味のある事柄(散歩、はり絵、唄、料理、テレビ観賞)等を一緒にしていただいている		利用者同士の関係性について職員が情報交換し共有して見守る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者さんの家族にも時々事業所便りを送り継続的な付き合いが出来るよう心掛けている。	○	退去された入居者家族がいつでも相談できるよう心掛けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの希望、意向を把握できるよう日々話し合っている。 ・意思疎通が困難な人にはその旨家族と検討している。		日々の行動や表情から汲み取り把握するように心掛ける。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に本人のバックグラウンドに、関する小さな事柄でも情報をもらい個別にファイリングし、更新している。		入居者担当により、日次記録を取り生活環境を十分把握して対応する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・身体状態は常にバイタルを基準に判断している。 ・一人ひとりの趣味、嗜好を把握しそれに基づくレクリエーション、対話を心掛けている。		記録をつける際、入居者の動きを把握できるようリビングでつけるよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・月一回の定期カンファレンスを開催している。 ・入居者の様子を把握できるよう全体、個別の連絡ノートを作成している。	○	カンファレンスにリハビリ、訪問医療関係者が参加し、意見を反映させた介護計画を作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や入居者と密接な連絡をとり、即対応している。		今後も続けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに排便、排尿、食事摂取量、当日の暮らしの様子、エピソードを確実に記録し介護計画の見直しに活かしている。		情報を必ず共有する為、個別状況やケア時の気づきや工夫などは記録だけでなく職員の交代時、申し送るようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院など本人、家族の状況に応じて職員が柔軟に対応している。		医療連帯体制を活かし入居者の負担にならないよう往診を依頼し医療処置を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・希望により地区センターの図書室を良く利用したり地域のボランティア(琴演奏・ハワイアン・三味線・コーラス)の方々が定期的に協力してくれている。	○	安心して暮らせるように警察、消防、民生委員と意見交換をする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・希望に応じて市の保養施設「あゆみ荘」温泉を利用している。また希望があれば訪問美容師に来てもらっている。		・デイサービス(新緑の泉)、グループホーム連絡会、隣接グループホーム等、相互交流をしている。 ・社会福祉協議会に参加し、役員をしている。 ・地域のケアマネージャの方々と連絡を取り合う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難な事例などは包括支援センターに相談し、本人本位の支援につなげている。		周辺情報や支援に関する情報など収集する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の希望にそった病院をかかりつけ医にしている。 ・受診は基本的には家族同行だが不可能な時には職員が代行している。		事業所の協力医だけでなく複数の専門医療機関とも関係を蜜に結んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>事業所の協力医に「物忘れ外来」、脳外科を紹介してもらい受診し適切な指示や助言をしてもらっている。</p> <p>日々職員は提携医療機関・訪問看護師に相談している。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>訪問看護ステーションとの契約に基づき医療面での相談、助言をおこなっている。</p> <p>介護職員の記録を基に医療機関との連携」がとれている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院先の病院からの情報をご家族、当事業所の訪問医師、管理者、ユニット長と協議して早期退院の為の話し合いを行っている。</p> <p>退院後はスタッフは利用者の健康データカード等を作成し全スタッフが同じ対応が出来るようにしている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>体調の観察をし状態の変化があるごとに、家族、本人の思いに注意を払い支援につなげている。</p> <p>職員は体調をこまめに観察し主治医の指示を受け共有して支援につなげる。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>家族と相談して入居者が安心して納得した最期を迎えられるように取り組みたい。</p> <p>医療機関と蜜に連携を図り対応する。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>これまでの暮らしが継続できるように支援状況などを提供する。</p> <p>ケアプラン、ケアのノウハウ、個人情報の移行先への伝達をプライバシーに配慮しつつ十分に行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員はプライバシーを損ねるような言葉かけは絶対にしないことを徹底している。 ・入居者の個人ファイルは目につかないように保管している。	全職員がプライバシー確保について常に具体的に話し合う機会を設ける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	常に希望表出できるようコミュニケーションをとりティタイムの飲み物の種類、レクリエーションへの参加、入浴等本人の希望を尋ねて本人が決められるよう支援している。	居室にこもりがちにならないように声掛けや会話し、明るい雰囲気づくりに心がけたい。 ・「傾聴」のより充実を図る為ボランティアの方々への働きかけをしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の体調に配慮し本人の気持ちを尊重して柔軟に対応している。	本人の希望を共有しその時々何に優先し取り組むか話し合う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・衣類の着替え、選択は自己決定してもらっている。 ・訪問美容院は、希望にあわせたカットや毛染めをしている。	日頃から化粧品に興味をもてるよう化粧品を買う時には同行してもらう。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者さんと調理から片付けまでおこなっている。 ・入居者、職員と一緒に会話を楽しみながら同じものを食べている	会話を楽しくめるようテレビを消し、職員の席も会話が弾むようさりげなくグループバランスを考えてきめている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・職員はコミュニケーションにより一人ひとりの嗜好物を知るように努めている ・おやつは職員と一緒に買い物に出かけている	湯呑み、茶碗なども希望に応じて個々に用意したり、共用にしたりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・尿意のない入居者には排泄パターンを記録により把握してトイレ誘導に行っている		あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導するように心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・当日の入浴担当者が入居者の体調を観察したり、希望を聞いたりして一人ひとりゆったりと入浴してもらっている。・羞恥心への配慮の為なるべく同性の職員で入浴介護を行っている。		入浴拒否の多い入居者に対し、適切な声掛けをし体調に配慮しながら習慣や好みを良く聴いて、個別にあった入浴支援を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中のレクリエーション、散歩に参加を促し夜ゆっくり休息ができるよう支援している。		夜眠れない方には夜勤者が落ち着かれ良く眠れるように温かい飲み物や、話をしたりして落ち着かれるよう心掛けている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・配膳、料理の下ごしらえ、洗濯物干し、たたみ他負担なく手伝ってもらい、又その際には感謝の気持ちを伝える。・楽しみ事、気晴らしは趣味、興味を見出し退屈されている事がないように支援している。		週毎に役割、楽しみごとのテーマを変えていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は所持してもらい、買いたいものがあればその都度職員と出かけ自分で選びお金を支払ってもらっている。		必要な食材を職員と入居者と相談をしながらゆっくり見て回れる機会を作るようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日 散歩、買い物などに行かれ月に数回車を利用し、外食、保養施設等へ出かけている。		利用者一人ひとりの希望に合った、外出方法などをさらに細かく、無理のない程度、回数を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には入所者と職員にて本人が希望するところに出かけている。(博物館、デパート等)		一人ひとりの思いや願いが実現できるよう行ってみたい所ややりたい事を日々本人や家族に聞くようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いの他本人が作成した絵てがみ等、友達、家族に出せるよう支援している。又字を書くのが困難な方には代筆するようにしている。		電話での会話は他の入居者、職員に聞かれないよう配慮する為子機により自室で使用してもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは決めておらずいつでも気軽に来ていただけるよう心がけている。		訪問された方がゆっくり出来るよう職員の対応、お茶、お菓子など用意している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解するよう勉強会をおこなっている。		職員休憩所に「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」のプリントを貼っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室やユニット出入口には鍵をかけていない(玄関、は事故防止の為、暗証番号による施錠をし、鍵は持たない。		近隣の地区センターなど不特定多数の方が利用する施設があるので不審者の侵入を防ぐ為玄関はオートロックになっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・皆の前で大きな声を出して話さず近くまで行き納得できるよう入居者個人を尊重して対応している。 ・夜間には起きられた時すぐ対応できるようリビングの中央のいるようにしてる。		入居者と同じ空間で記録作業等を行いさりげなく全員を見守られるように努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせて再検討しながら保管している。薬剤は職員控え室で特に厳重に保管している。		注意が必要なものは何かを職員が把握し管理方法を話し合っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの報告をもとに再発防止の為職員間で予測される事故を検討し合い未然に防げるよう取り組んでいる。		行方不明防止の為散歩時には一人ひとりに名札(施設名のみ)をつけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急の際の対応を毎月のカンファレンスで個々の入居者に 対応できるよう受診病院、初期対応など話合っている。		訪問看護師により定期的に応急手当の勉強会を実施したり行政や消防署による研修会にも参加している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者とともに避難訓練、夜間避難訓練をおこなっている。消防署の協力を経て避難経路の確認、消火器取り扱い方を学んでいる。		避難路の確認、設備点検を定期的におこない火災、地震に備えて食料、飲料水、薬など非常口に準備している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々入居者の状況を家族に具体的に伝え今後の起こりえるリスクについて理解してもらっている。		本人が精神的に安定し抑制感なく暮らせるように対応策を検討し、家族の理解、さらに協力が得られるようにしていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの顔色や様子の変化を見落とさないように注意をし症状が見られたときには個別に記録し共有して速やかに医療機関に報告、相談している。		一人ひとりの持病、アレルギーの有無を把握している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの処方箋を確認し薬の目的、副作用を理解している。職員は服用が済むまで付き添い確認し服用管理表にサインしている。		薬の服用によって変化があった場合家族、医医療機関に連絡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	戸外への散歩による適度な運動や繊維質の多い食材を採り入れることで自然排便を促している。		下剤服用の入居者には個々の状態にあわせ服用量の見直しを検討している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き及び外出後のうがい、訪問歯科による口腔ケアを行っている。		共同洗面所に利用者全員の歯磨きセットを置ける棚を作り、今より更に口腔ケアを充実させたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を提供し、チェック表を作成し栄養摂取量、水分補給量を把握している。		外出後、入浴後にはお茶やスポーツ飲料など勧めて水分不足にならないよう配慮している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後や食事前にはうがいや手洗いを促し予防に努めている。起こりうる感染症についてはマニュアルを作成し全職員で学習して対策に努めている。		入居者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としては処理道具、消毒液を用意している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板、冷蔵庫内食材など各勤務体制の中で、責任者を決めて定期的に点検している。		殺菌、消毒を徹底し新鮮な食材を使用する為、毎日買い物に出かけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にある掲示板は入居者の作品で飾ったり、玄関は季節の置物、職員と入居者作の季節の生け花、書で和むよう心がけている。		コンクリート部分は常に水洗いして清潔に保っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから洗濯物を干すベランダや料理している台所が見え生活感が伝わる工夫をし共用空間にはイベント毎の写真や入居者作成の絵や作品を展示し季節ごとに変えている。		入居者同士、不快感を感じないようにテーブルの席替えや位置を職員の情報を基に考慮し、工夫している。夜間には安全に歩行できる範囲で照明を調節している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日光浴などが出来るようソファのコーナ、足を伸ばせる畳のコーナー、ベランダにゆっくり過ごせる椅子コーナーなど居心地良くすごされるよう工夫している。		奥の廊下の片隅などに椅子を置き仲の良い入居者同士くつろげる空間を確保している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具、寝具、本人にとってかけがえのない物を居室に持ち込めるような支援をしている。		入居者が安らぎを得るような馴染みの物、古い物が不可欠である事を家族に理解してもらい、協力を得るよう働きかけている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室は朝の掃除以外にも一定の時間帯に換気している。寒暖期でも冷暖房に頼りすぎずに入居者一人ひとりの状態に配慮してこまめに温度調節を行っている。		季節感をなくしたり、外出時の負担軽減のため外気温との差を大きくし過ぎないように配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンの流しや洗面台、物干しの高さ、収納場所が使いやすいように低めに設定してある。		リビング内では安全面と一人ひとりの活動にあわせた趣味、体操ができるよう、車椅子、押し車等を個々の状態に合わせて使用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜中でも迷わずトイレに行けるようトイレの電気はつけている。居室の入り口には表札だけでなく本人がわかるよう自作の絵などを貼ってある。		トイレ、風呂場などの扉には入居者の目線の高さにし既製のマークではなく親しみやすいものになっている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りで入居者自身が花や野菜を育てたり、ベランダでは洗濯物干しや日光浴やバーベキューを楽しめる工夫している。		外出が困難な人、嫌いな人にも日常的にベランダでお茶を飲んだり、園芸に加わってもらい、季節を感じえ楽しめるよう工夫する。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. アナログ血圧計を全職員が使用できるようになり、利用者の正確な血圧測定ができるようになった。
2. ご利用者さんに、できるだけ多くの日々にワクワクできるような刺激を持っていただくため、お絵かき、絵手紙、その他紙工作などのレクリエーションを、毎週3～4日開催している。
3. できるだけ外出の機会を増やし、なかでも秋から冬にかけて、中学校・高等学校の学校行事(チアリーダーの練習や吹奏楽・太鼓など)の見学を行い、ご利用者さんに学生達のダイナミックな動きをお見せし、元気を持てるようにしたい。

